



丁共六冊

鎌倉之部

采香齋史料

養浩堂藏書

早稲田大学図書館
文書 27
D 29
4



栗香史料

高倉 治承四年八月起兵戰不利 奔房州 九月赴上總入下總

有經武州入鎌倉 幸井市兵越延栖山上大庭景親戰敗 進別後州

噴島 聞平富潰而留還鎌倉 賴朝三十四年十月入鎌倉 新第出

仕之侍三百十六人

養和元年 清成置死 此年賴朝終年占平公戰

二年 賴朝殺上總以廣常冬 建 範賴義經討義仲

元曆元年 大谷城陷 賴朝不聽義經任官 六月義經東下 謝說 有

奏上皇以勅義經西征 八月義經在衛門少尉檢非違使 實一公 印

賴朝不悅 罷義經 西征而遣範賴 發鎌倉 九月義經從

源氏盛運

平氏衰運

五卷下十月院内昇殿

文治元年二月義經西征屋島陷首二四日平氏亡

五月七日義經使龜井六郎撤壇文十廿日義經以平内府

到酒匂驛北條時政以迎之義經ハ驛舎入ハ六月九日

附義經還内府誅之江州篠原十月使赤坂龍義經先

日頼朝西征十月言義經行家出京東冬入京頼朝遣師

時政入洛請諸國守護地頭不論權門勢家莊公可充各

糧米献兼賞以此諸地頭願世百知許

二年百使頼朝為總追捕并地頭

五年五月晦日義經自殺九月言泰衡走死

建久元年案より

文治

文治

建久元年頼朝十月上洛

四年八月頼朝難籠頼

九年十月花山洛馬

正治元年正月十言平

五十三歳治承四年より二十年

北條時宗

白河鳥羽御代の比より政道のたき、長安衛、家一後白河

御時各尊起し、女御也、亂天下、民強塗炭、

為り頼朝一臂、揮其乱の事、玉室長き、

上下堵安あ、西より其徳、服者又お、

手治ら、はたの世みたり、河、

頼朝といふ人

頼朝機軸、美相
春時成感、實良

坊、垣、相、り

宗元善信、
策、七、印、り

頼朝、殺、せ、
一、族、

弟、二、
頼朝、殺、せ、

義、後、
行、家、

義、仲、
行、家、

義、經、
義、經、

多く、春、時、の、子、者、は、り、其、日、本、國、の、人、民、い、ま、か、た、り、

女、正、統、治、の、之、の、所、に、孔、子、存、心、の、仁、を、守、り、

頼朝、の、七、の、軍、起、す、り、王、政、勤、と、し、民、を、安、ん、じ、

ふ、了、平、の、唯、魯、魯、益、天、下、を、治、め、頼、朝、の、功、を、

足、終、り、其、度、も、伊、豆、の、也

頼朝、股、肱

北條時政、曰、義、時、大、江、廣、元、三、善、唐、信、口、胤、俊

在、京、三、浦、義、澄、八、田、知、家、和、田、義、盛、比、年、能、員

藤、元、即、入、道、運、西、足、立、左、衛、門、尉、遠、元、梶、原、景、時、氏、初

大、帥、行、政、考、決、合、し、て、成、敗、を、謀、策、也

義、仲、の、子、成、為、の、
子、三、子、又、稱、り、
六、八、人

仲、木、定、綱、經、高、盛、細、為、綱、加、藤、景、廉、堀、肥、實、平、河、邊、盛、長

三、浦、義、明、子、義、隆、義、運、千、葉、常、胤、子、正、胤、平、廣、常、後、末、相、取、成、敏

岡、部、義、實、三、浦、義、明、弟、義、忠、義、實、子、古、田、與、市、梶、原、景、時

天、野、遠、景、村、野、茂、光、子、親、光

畠、山、重、忠、江、戶、重、長、等、來、陣、武、田、信、義、子、信、光、等、四、回、義、

頼朝、若、兵、元、江、
伊、豆、日、代、平、兼、隆、
の、牧、寮、時、政、也、
大、地、景、親、
大、地、景、尚、
長、尾、為、宗、
高、山、重、忠、
後、所、頼、朝

公、院、實、朝、の、有、り、子、を、持、た、り、其、義、は、左、右、多、く、謀、す、し、

下、知、の、能、ハ、一、族、成、振、き、て、評、定、了、長、尾、新、六、定、景、古、付、子、

定、景、首、と、切、り、以、り、以、長、尾、新、六、定、景、古、付、子、

大覺禪師來
異僧之末此為言

義時

六十二死
執持十年

泰時

六十二死
執持十年

經時

三十三死
執持十年

時賴落飾

在職
十年

落飾

山內

退居

之

最明者

年七十
死

文德元年七月僧蓮

對面

張元年

七月

陽

與八道

重時

死
年七十

極樂寺

時

三十四死
執持十年

外史
賴朝以黃瀬河會有將率于騎來因土肥曾平亦見賴朝
賴朝問狀對曰其身面三十九拓面目後蓮曰是陸奥九郎也
函呼入宴平導入幕果義經也問阿兄起義喜不自禁因辭秀
衡而求賴朝大君曰八幡公東征也過新羅公來授曰猶見娘媼
事今若遇乃猶見娘媼也

景時伏誅

時政村賴家

義時殺重忠

義時善長昭死

○清和帝皇

清和上皇崩 三十五歲 元慶四年

貞紘親王薨

五十歲 鎌倉親王 永承四年

源經基卒

父、後、二十二年 天德三年

源滿仲卒

長德二年 父、後、四年 七十四歲

源賴信

源賴義卒

八十歲 永保二年

源義高卒

六十七歲 天仁元年

源為義卒

保元二年 為長田忠致殺 天仁元年

源義朝卒

永曆元年 五十二歲

源賴朝薨

正治二年

鎌倉前朝

治承四年

源賴朝 教

○已愼下 明治十年

○父吉利 七十四年

○祖父吉敦生

○經基卒

○百四年

三世 百四年

四世 百五十二年

二世 五十二年

源賴家

二十歳

時改裁賴家

源實朝

二十七歳

賴家

賴朝自鎌倉到源朝亮
其年三也

一階九
公院

殺實朝後保元
討
賴家
二十年

北條

時改

賴經 承久二年

義時為執權十六年目より
時改
承久二年目より

賴朝

義時

宗尊親王仁將軍

時經

惟康親王仁將軍

時賴

久明

時宗

守邦

北高時被滅

元弘三年
承久二年
百廿年

及成氏在吉河
備令
三百七十身

定頼水
系師

清和天皇第六皇子貞徳親王
其子經基親王為武官

鎌倉

地之面山一面舟古

源賴朝
及賴朝開朝府亦以滿合為根據
日世為征夷將軍
源賴朝
源賴朝
源賴朝

北條
北條
北條

源賴朝
源賴朝
源賴朝

源賴朝
源賴朝
源賴朝

源賴朝
源賴朝
源賴朝

後醍醐帝

讀史錄論
後醍醐帝中興建武元年正月大内兼造高倉院安元三年大内燒去此
六年百廿安藝周防料國寄ラ日本國地頭御家人所領
得分二十分一懸課是時初紙錢作ラ是紙交致

○中興功賞

足利治部大輔、武藏常陸下總

左馬頭直義、遠江

新田左馬助義貞、上野播磨

子息義顯、越後

兵部少輔義助、駿河

南判官、攝津河内

名科伯耆守、因幡伯耆。

其外公家武家、二個國三個國ヲ給ル志願ナク三箇國ヲ給ハリキ赤松圓心ニ任用莊一所ヲ給リ、播磨守護職ハ程ナリ召還ス

○官制

梅松論、元弘三年天下ニ統セリハ、諸國ノ國司守護ノ定メ、卿相雲客各其階位ニ登リ、程實、欠てたり。御聖断、
廻五畿七道八番ニ分レ

新決所、號ニ新ニ依リ、御相ニ以テ頭人トシテ先代引付

此決決、たり、本年此の御留難

記録所、大議ヲ於テ裁許ス

宮廷所、號ニ依リ、土佐守兼光、太田大夫判官親光、富部大

舎人頭、三河守師直等、衆中ニテ御出アラテ聞ヒ召ス

武者所、置新田、人人ヲ以テ頭人トシテ諸家ノ輩ヲ結番ニシ

古ノ興廢ヲ改テ今ノ例ハ皆、新儀ナリ、朕ハ新儀ニ未ダ先例ニ

新ニ勅裁漸ニ聞ヘリ

記録所、決断所、置ルニモ、近臣臨時、内奏ヲ經テ非義ヲ申シ行

間、論言朝、變シテ改リ、諸人、浮沈反掌、カシ或先代滅

亡、時逃レ來ル輩、又高時ノ一族等、被官、外ハ寛宥ノ儀ヲ以テ死罪

ヲ宥ニス、又天下一同ノ法ヲ以テ安堵ノ論者、下カレト雖モ所帯

召テ、輩恨シ合ム

○萬里小路藤房忠諫辭職

元弘三年八月三日、軍勢息賞、沙汰ニシテ、洞院左衛門督實

世の上卿定まらば諸國軍勢功状ヲ捧ケテ恩ヲ望ム輩救ヲ知ラズ實
ニ忠ニモ人ハ切ヲ恃テ使ハス志ナキモノハ奥ニ媚ニ寵ニ求テ上聞ヲ
掠メテ間敷月ノ間ニ僅廿餘人ノ賞ヲ行シテ事正路ニあらずして
ヤリテ忍シ逸シ萬路小路ニ細言勝房ヲ上卿トカレ忠否ヲ糾シ申
あな人とせらるる内奏ヨリテ朝敵ありしニ安堵ヲ賜テ忠ニ
者ニ五個所十個所ノ所願ヲ賜テ藤房諫ヲ納ルルハ病ヲ細シテ
移セリ

九條民部卿光經其後上卿トナル

其後九條民部卿上卿トシテ諸大將ニ其志忠否ヲ尋究テ申
向テむりテあはす

相模入道ノ一跡ハ 内裡供御料所ニ置

四郎左近大夫入道ノ跡ハ 兵部卿親王ハ

大佛堂奥牙跡ハ 准后ノ御料ニ

此外相州乃一族關東家風ノ輩ヲ領シ 鄂曲ノ岐女蹴鞠伎

藝ノ者トシテ衛府諸司官女官僧等ニ一跡ニ跡合ヒテ内奏ヨリ申

シ給リシカ

六斗餘州ノうちニ立錫モウリノ地モ軍兵ニ可行ノ所ハ所 光經モ是
ミテ身月ニ送ル

又雜訴ノ汰汰ヲ為シテ却芳門左右ノ脇ニ決断所ヲ建テ其議定

人ノ才學優長ノ御相雲容記傳明法外記ノ官人ニ三番ニ分

チ一月ニ六個度ノ汰汰ノ日ヲ定メ或ハ内奏ヨリ訴(勅許)ノ蒙ル

決断所ニシテ論人ノ理ヲ附ラレ又決断所ニ本主安堵ヲ給フ

當時濫賞ノ有様
想ふ所

ハ内表り其地と別人の賞を行ふ。カリシ。社々所領之處。五人給り主付の國國の動亂止む計なり。又日頃とも武威を本所とせしむ。武士とも。いつく諸庭の奉公人となせ。或ハ香車の後より。或ハ青竹の節より。世の盛衰時の轉變なき。或ハ奴習より。或ハ今。如クテ。公家一統。天下ナシ。諸國の地頭御家人皆奴隷雜人。如クテ。あぐり。憐れ。いふ。不思議も出。來。武家四海の權を執。世中。又。なまじり。と思ふ人のみ多。り。至。東國人心鎌倉左馬頭夢。長。御前左馬頭殿鎌倉。御座。り。東國。非。事。り。歸。服。京。者。應。セ。リ。一。統。御。本。意。今。於。此。更。具。益。有。思。召。武。家。又。公。家。恨。

と合せて頼朝卿の如く天下の專を其事とし。思。故。公家。故家水火ノ事。元弘三年。暮れ。けり。

建武元年ノ形勢

建武元年元三節會以下ノ儀式ハ皆亦回。世の中。人心を調。後。物。見。大塔宮。義貞。成長。年。階。み。慮。受。け。い。ち。事。及。高。氏。軍。務。知。合。戰。難。儀。な。既。軍。先。事。延。え。北。山。殿。臨。時。行。事。度。六。月。七。日。大。塔。宮。大。將。高。氏。所。務。武。將。乃。御。勢。御。面。誓。固。餘。軍。勢。二。條。大。路。先。備。一。事。の。體。大。儀。れ。日。當。日。無。為。なり。若。程。

宮内省

建武八年四月五日
祀三於御座

高氏憤り申れにまふまふなく敵慮多非宮張行の趣也一を
十月廿一日の夜御参内についでとて武者所み丹籠奉り翌
朝常盤丹殿へ遷り奉り武者の筆誓固り奉り宮の内輩
とて武者の者衆兼て御回身^{御命}とて數十人右願らば十月廿二日
細川隆興守殿氏請もて關東に御下向あり宮の内謀反真意
ハ敵慮多ありしに御答を言ふ御心は宮ハ武家
ハ分君の恨しくまらう務むと御指言ありしと御心

足利尊氏の心事を論ず

今川貞世の難太平記に曰く義家の御置文ハ我七代の孫ハ我生
と覺て天下と解^解願しと仰らるハ家時^{家時}の御代ハ安んじたり
楠と時不束事を知しとまふまふハ幅大菩薩^{大菩薩}御^御たまひ

而御座
直義

て我命と知て三代の内天下と解^解願し御賜と切りむじり
其時^{其時}の御自筆の御置文ハ多細ハ見えしあり曰く西御所の前
に故殿^{故殿}と御國人と我等ハと拜見申し奉り也今天下と解^解願
唯此發願也者^{唯此發願也者}と西御所^{西御所}に御あり也あり也謀^謀願^願しと仰り
思ひ定て上杉兵庫入道^{兵庫頭藤原康房}に先づ吉良
上総禅門^{上総禅門}頼朝^{頼朝}仰命^{仰命}しと仰り也直義^{直義}の御心ハ
一此此事^{此事}關東^{關東}御心^{御心}の時^{の時}に曰く上杉兵庫入道^{兵庫頭藤原康房}に御心^{御心}申^申初^初々^々也
家時^{家時}自^自氏^氏此^此方^方御^御所^所の御遺意^{御遺意}と大方殿^{大方殿}の上杉^{上杉}を^を仰^仰聞^聞こ
也希^希也^也の^の也^也見^見以^以り^りて^て殊^殊更^更ハ人^人智^智と^と仰^仰り^りて^て河原^{河原}合^合戰^戰討^討北^北に
あり也

日石掛もよ大塔宮を^{大塔宮}より尊氏^{尊氏}を^を叛^叛臣^臣と^と見^見境^境し^しの^の行^行討^討あり

高文欲奪孫
權

一、思恩の事、尤も、其の事、も、終たり、難太
平記、説ふ、れ、尊氏、武家の、代、を、奪、人、を、思、六、を、
身、公、一、た、も、尊氏、真義、兄弟、を、思、り、の、み、あ、う、に、家
時、貞、氏、乃、代、り、其、志、が、あ、り、し、う、と、傳、な、の、り、し、あ、は、そ、の、び
過、き、尊、氏、の、官、方、に、参、り、し、但、其、勢、多、假、社、の、の、み、也、朝、家
の、御、弟、を、義、弟、と、舉、り、統、一、と、あ、り、斯、く、て、天、下、に、あ、う、ま
君、は、し、外、に、は、家、一、統、の、代、と、あ、り、し、う、は、い、の、あ、り、て、右
大、將、家、の、と、く、武、家、の、代、と、成、ま、あ、る、を、思、五、社、事、と、言、ふ、御、
覽、し、あ、り、し、う、を、速、に、討、つ、て、一、と、思、五、社、の、御、行、
な、り、し、也、矣、甲、を、あ、り、し、あ、り、し、尊、氏、や、も、其、社、母、と、准、后、と
十、八、申、傳、し、と、帝、益、と、傳、と、後、へ、り、

讀史餘論

文治元年二月十六日義經西征十七日渡海十八日陷屋嶋三月
二十日義經與平軍戰長州壇浦敗之先帝没海平氏志職
西海皆平賴朝命範賴留鎮九州徵義經還二十六日神鏡
神璽入洛二十七日賴朝叙從二位
玉海云義經朝賞清盛叙正三位山
例也賴政叙從三位義經自正位下
直隆五月義經使龜井六郎贈誓紙於賴朝就因贈于廣元
訢寃賴朝不答其後義經率宗盛父子東行至腰越賴
朝不許入鎌倉六月義經率宗盛父子帰洛放逐江斬
宗盛父子

南朝正平四年
林正行對北二年

貞和元年

八月直義謀殺師直事。茂師直迎師直於河內。此時師直在河內師直率

衆九日歸京。吉圓心則祐等。到師直宅。師直使二人防直冬。直義亦於十二

浴中驟然軍兵聚於直義宅者七十餘。聚於師直宅者五萬餘。尊

氏遣人到三條殿。直義宅同在一處。直義乃到將軍。近衛東洞院御所。尊

十三日師直及子師直等圍將軍第。要請賜上杉重能富山直宗

二人。自今以後。左大臣督殿。關海政事。遂流重能直宗。尊氏從之。

急自關東迎義詮。參政道。被師直參與之。義詮十月曾獲鎌倉。三吉

入洛。三條坊直義弟。執行政務。直義移居錦落第。直義為討師

直師直。絕世望。捨身也。出家。年三歲。流重能直宗於越前。二人為師直

所殺。明年改元觀應。于時聞九國三島屬直冬。師直勸尊氏征伐之。

四
三
一
四十六

上杉家判度出是利時
高家
待祖

師直兄弟皆被
殺

師直六月發向十月尊氏謀獲其夜直義遁逃因師直擊直義而向
西回。遂赴大和。降吉野。青象兵屬直義。義詮急使早騎告尊氏。
在備前福園。尊氏使師直引還。尊氏上洛伐直義。觀應二年正月
七日陣於八幡。義詮又赴八幡。共回勢。梁軍集。仁木賴章。一壹賴房。
考皆會。尊氏陣於引尾。師直陣於江尾。與直義官軍戰互。放矢。尊
氏不能支。與高家孫人常從侍子之。既欲自殺。既而合體事調。
師直兄弟降降。決出家之議。然師直猶子在鎌倉執事。在望師直
師直欲與之。屬東國亂起。師直入甲州自殺。到此師直兄弟別後。從
尊氏上洛。比遇武庫川一旅皆被討。二十八日尊氏歸都。義詮
來自丹波。直義來自八幡。三人相會。有一獻之禮。直義言

無興氣答歸家。其後尊氏欲討伏木道隆。有欲問直義之
事。直義又逃京赴越中。兄弟又戰石堂。畠村并屬直義。
富山國清謀兄弟和睦事。在義詮執政權事。直義不肯。
國清屬尊氏。於是多屬尊氏者。十月直義經北陸道入鎌倉。
尊氏亦向鎌倉。義詮在京。十月兄弟戰薩埵山。直義破直
伊直義。轉奔北條將自殺。又有和睦事。觀應三年正月還
鎌倉。
難太平記不中先代ノ時天下ヲモ御當家ヲモ録申給ヒ事
大御所ハ高レ玉ハ唯如何ニモシテ大休守殿ヲ實運院殿
ハウラヒテ天下ヲ讓リ申サセ玉ハカレドノ御方便故ニ播州井出ノ

戦時、師直師素討し、モ答メテ又由比山ノ合戦、後上杉氏部
大輔憲頼伊豆山ノ門分レテ落キ、モ大御所ハ答メテ又御合戦ト
定キ、先ト付テ西御所高御談合有テ、京都ノ坊門殿ハ如
何ハ申セ玉フテ御政セ玉ヒ難シ、然レモ天下ヲ保シテ玉ヒ難
シ、辟テ御政通カシ違フ事アリトモ、關東大名等一同ハ日本ハ守
護スベシ、然レ又此御兄弟ノ中ニ鎌倉殿ヲ置キ申サレテ、京都ノ御守
目ニテキ申セテ目出タリルヘシト御内談アリ、坂東八國ハ先王御料
基氏ノ諱ヲ申サレテ御子孫ハ坊門殿ノ御代トシテ身ヲシテ申シ置
セ玉ヒシトアリ、此説ハ、三基氏圖策ノ、身後ノ事ナリ

此時觀應二年二月二十六日直義禪門卒、年七歳也、或言

被毒殺
義詮謀降吉野。義詮養光院。義詮心益不寧。南帝
行幸八幡。官軍入京。義詮走江州。官軍取光嚴。光明當先東
宮貞仁。遷吉野。實名知。武藏守新田義宗。率兵上州。平國中越
武州。入鎌倉。記書身ハ龍居武州。狩野川。或曰戰於指差原。敗退武州
石濱。義興義治入鎌倉。聞義宗為尊。以能印并此敗。入國府。
津山。三年。義興義治去河村城。東國始靜。尊以以富山國清為
基氏家光。歸洛。
直冬屬南朝。尊以父子相戰。

憲房

憲頭

憲方

憲房

法名道宗

出内祖

能憲

法名道諱 為重能卷子
憲方 法名道合

足利系室町

尊氏

義詮

義滿

義持

義隆

義教

義勝

義政

義隆

義隆

義隆

義隆

義隆

義隆

實朝 贈從三位左大臣
延元二年四月壬午

貞治六年三月七日
大政大臣牛島滿實朝

應永五年
應永五年三月廿九日

應永九年
應永九年三月廿九日

應永十三年
應永十三年三月廿九日

應永十七年
應永十七年三月廿九日

應永二十一年
應永二十一年三月廿九日

應永二十五年
應永二十五年三月廿九日

應永二十九年
應永二十九年三月廿九日

應永三十三年
應永三十三年三月廿九日

應永三十七年
應永三十七年三月廿九日

應永四十一年
應永四十一年三月廿九日

應永四十五年
應永四十五年三月廿九日

應永四十九年
應永四十九年三月廿九日

應永五十三年
應永五十三年三月廿九日

足利 錦倉系

基氏

氏滿

滿兼

持氏

成氏

政氏

高基

晴氏

高基

義明

基賴

在古河 後家高基讓之 國府城在

在古河北條氏綱結上杉滅之謀

妻北條氏綱女

與州千代後上總來御弓城

御弓御所上總

足利系室町

尊氏 延文三年四月壬午 五十四歳

義詮 貞治六年三月七日 三十八歳

義滿 應永七年正月 五十一歳

義持 應永三年 四十二歳

義量 應永三年 十九歳

義教 應永元年六月 四十八歳

義勝 應永三年 十歳

義政 延德二年正月 五十五歳

義尚 長享三年 二十歳

義植 執政四年 二十歳

義澄 永享元年 三十三歳

義輝 永享元年 三十歳

義昭 長享二年八月 二十六歳

足利 錦倉系

基氏

氏滿

滿兼

持氏

成氏 吉吉河

政氏 在吉河後家高基讓子因有城在

高基 在吉河北條氏綱結上杉滅之謀

晴氏 妻北條氏綱女

高基

義明 奥州下上總來御弓城者

基賴

山陽外史抄

鎌倉

京師

二十一年當此時關東兵力倍於京師而天子廢立公卿

易置則京師專之威權無比世俗呼曰公方

初義滿定幕府官政京師室町左御所

武衛

細川。畠山氏。更為管領。謂之三管。

山名。一色。京極。赤松。更為侍所別當。

謂之四職。

武衛

即斯波。京極。即佐佐木也。武田。小笠原。更

司馬。鳥禮。式。

吉良。今川。澁川。更為武者頭。

伊勢。為奏者頭。

宮内省

應永三十三年

杉禪秀、存

云師教持、等

當持氏之時上杉氏

憲執事、持氏子之者

隙、氏憲、輝、以上杉

憲基、代之、憲基

憲定子、憲房、子孫

也、氏、憲、重、顯、玄、孫

也、禪、秀、乃

二十三年、氏、憲、作、乱

此時、武、州、有、江、原、氏

關東亦擬之、自稱曰公方。

故上杉憲房之後世居鎌倉山内。

憲房兄重顯其後世居扇谷。稱而上杉。

更爲管領。

而故氏滿弟滿直。管陸奥出羽。

号曰三管。

千葉。小山。長沼。結城。佐竹。畠。那須。宇都

宮。八族曰八管。

杉義滿此舉朝家、其根家七清、率、十、口、七、六、族、之、多

義政、取、風、流、不、存、天、子、爲、亂、成

山名細川、亂源

義政弟

義尋

津土寺川主、子、義、尋、掃、落、セ、レ、ン、從、意、下、高、顯

義規

名、リ、ヒ、タ、リ

義政ハ、義規、天下ヲ讓、リ、テ、約、シ、細、川、勝、元、其、執、事、ト、ス

六年十月

義政、男、子、ヲ、生、ル、是、即、チ、義、高

御、皇、所

義、高、母、栗、松、内、女

臣、重、政、竊、山、名、宗、全、ヲ、賴、シ、テ、其、男、ヲ、世、ニ、立、テ、シ、テ、其、孫、ニ、宗、全

之、ヲ、諾、ス、勝、元、宗、全、ヲ、聲、ヲ、勝、元、初、ノ、子、ナ、ク、宗、全、カ、子

ヲ、養、フ、其、後、實、子、生、レ、シ、カ、ハ、義、子、ヲ、ハ、僧、ニ、シ、テ、宗、全、快、ヨ、ラ、ス

又、赤、松、郎、口、家、ヲ、シ、シ、テ、リ、恨、ミ、テ、シ、テ、ハ、義、規、ノ、世、成、リ、タ、リ、シ、テ、勝、元

其、權、ヲ、取、リ、テ、ハ、何、レ、モ、義、規、ヲ、謀、リ、テ、宗、全、心、組、シ、テ、リ

上杉朝宗、鎌倉兩
萬、謙、シ、義、開、ハ
執、心、ヲ、ラ、シ、ム、大、内、親
弘、滅、シ、テ、東、山、和
暗、上、杉、計、シ、テ、リ
滿、高、ノ、弟、滿、貞、ハ
陸、奥、ノ、管、領、ト、シ、テ、リ
砂、浜、川、ノ、戦、ニ、下、ル、此
時、伊、達、重、隆、宗、全
入、道、ト、改、リ、稱、ス、リ、
杉、右、衛、門、次、氏、憲、向
ヒ、テ、若、水、一、日、於、宗、所

走古河記

并任柄天神自親朝時在屋羅祝融記傳不傳文獻無
可徵有尊氏自畫地藏讚曰夢中有感通令我
畫身容利濟徧沙界善根無所不能为天化藏也
仁和元年六月仁山尊公道號

成氏走古河之仔細

鎌倉
天鼓
二氏滿
三滿兼
四持氏
五成氏
六政氏
七高基
八晴氏

憲實之子
新考也

享德元年鎌倉成氏被上杉憲忠在古河自是鎌倉
無公方文明三年成氏被上杉顯定破古河走千葉士年成氏
與顯定和睦歸高河顯定在平井管八州角谷上杉定政之臣
大國通灌在武州江戸父子相謀自是關東將士離山内從角谷西上

杉戰妙
天文六年御旨御所古河佐義明北條氏經討之初古河
成氏子左馬頭政氏家ツキ三男より長子高基子義明
三子基賴稱父不快事より義明與下之政氏
家より高基讓りて關宿城在享祿四年七月平其
比上總守護武田如閑仁八原二郎と爭論ニケレ義明

古河御所
成氏
政氏子
高基孫
晴氏曾孫
政高基子
合戦永享元年

長亨元年西病
作亂

或養古河成氏
其政氏之弟頭
憲為嗣
讀
史曰頭定

文明七年。成氏乞和室所教政父子殺之。十八年上杉頭定
運策使扇谷定政殺道灌自是扇谷衰。此年伊勢
新九郎早雲京師下駿河屬今川。明應三年伊勢早雲入
相州上杉頭定通謀取扇谷屬城山田原。此年九月
古河成氏卒。其子政氏立為左馬頭。永正元年十月兩
頭定與扇谷朝良戰河越。此年早雲及氏綱父子出
武州威振樂東。西上杉相議曰自其同族相戰不知防
北條。因為和暎。七年頭定為家臣長尾為景殺。此後
美長憲字子憲房。為嗣。三年早雲滅相模三浦
道寸。兵威益強。西上杉遂衰。

上杉家譜
顯

能憲道經為重
憲方道百
能

報恩寺舊跡在西御門西谷。義堂為上杉兵部少輔
能憲建此寺。寶永二年三月殿柱四年四月十七日能憲
道經死年四十六。顯。道經之兄憲頭之弟。
為重能養子

保壽院舊跡在報恩寺西南。源基父母保壽院
清江寬公殫尼喜提所係。義堂開創。此院
入保壽院燒香。義堂獻真觀政要曰唐太宗治天
下在此書一部。今幕下治天下亦宜讀此書。此書
之義堂又借以滿吾書鏡讀之曰實。此日本敬
佛崇神之國也。

七時一信務（一）、（二）、（三）、（四）、（五）、（六）、（七）、（八）、（九）、（十）、（十一）、（十二）、（十三）、（十四）、（十五）、（十六）、（十七）、（十八）、（十九）、（二十）、（二十一）、（二十二）、（二十三）、（二十四）、（二十五）、（二十六）、（二十七）、（二十八）、（二十九）、（三十）、（三十一）、（三十二）、（三十三）、（三十四）、（三十五）、（三十六）、（三十七）、（三十八）、（三十九）、（四十）、（四十一）、（四十二）、（四十三）、（四十四）、（四十五）、（四十六）、（四十七）、（四十八）、（四十九）、（五十）、（五十一）、（五十二）、（五十三）、（五十四）、（五十五）、（五十六）、（五十七）、（五十八）、（五十九）、（六十）、（六十一）、（六十二）、（六十三）、（六十四）、（六十五）、（六十六）、（六十七）、（六十八）、（六十九）、（七十）、（七十一）、（七十二）、（七十三）、（七十四）、（七十五）、（七十六）、（七十七）、（七十八）、（七十九）、（八十）、（八十一）、（八十二）、（八十三）、（八十四）、（八十五）、（八十六）、（八十七）、（八十八）、（八十九）、（九十）、（九十一）、（九十二）、（九十三）、（九十四）、（九十五）、（九十六）、（九十七）、（九十八）、（九十九）、（一百）

丈量天下之田地

第一條

古以三百六十步為一町。以一安克一丈一日之食。以一町克一

年之食。然變古法以三百步為一町。（古法以六十尺為安量臣時以六十寸為安）

又用當代六尺繩古三百步中六十寸步。民亦得不窮困乎。此法欲再復古。如井田一變不復舊。如何則秀者如此大量而如故

因軍法一錢切

第二條

人盜一錢則充死刑。刑罪已重。到重罪輩。或切腹或斬。罪獄門或磔。大失者之刑始矣。死者一也。為凶惡者。何問死刑之異同。國中到處大辟常不絕。雖距百年勝錢去殺之。今日猶議刑重。

刑重

第三條

結信以摺然。是異朝衰世有之。賴是行天下政事可觀至。

武家官途

第四條

武家之官途。以テ。外ハ高貴多シク。當代ハ卑シク。抑
ハラシキ事多シ。以テ。謂ルハ政事ナラズ。

宮室壯麗

第五條

宮室裝飾。自此時極壯麗。倍古代。由此事凡百器
殊極奢靡。至當代漸從儉。不有禮節。則耗國財。

第六條

大間家之人人。雜當代諸學之人。往々失三河之風。三河之風以
忠信為心。以儉素為行。大間之人多偽。與矜之風可戒也。

此外成子成當代法律之至。後世可議者。耶。歟。三事起リ。

宗門下ハ小事ニシテ。政事ノ要トスル事。其時ニ當リテ。莫秋
テ。莫秋ヲ治ルルモ。言フベシ。今ハ於テ。如何スルヤ。

○河村隨見の語り人はいづれぬよ人のなう
さぐりわをこのん

邵康節の言物言敷^{まじ}りといひて敷いふといふのまじりなを
うぬまづつるもいづれも天ありある人々を身のいけむ
せぬたづも極の樂む心もたみてもちんまありたる
しりておまかなるまを天ありまこ一は言ふ
あせがなりとあり

○柳里菴、陽柳と名いふつ編ち河東節の歌いなり
三千と存ふなりふ花とあり



